

ごんた坂

第4号

～ 光陵会同窓会報 ～

<発行所>
神奈川県立光陵高等学校
光陵会
<印刷所>
中央出版印刷機



▲現在の光陵高校

光陵会会長挨拶

光陵会会長 太田 秀和



第4号の会報ができ上がりました。光陵会の若いスタッフがボランティアで作成してくれた労作です。是非、内容をごらんになってください。

光陵会は若いスタッフの努力で長く続いています。一期生の方々は今49歳。第一線でご活躍中の方が多く、なかなか同窓会活動への参加が思うようになりません。したがって30、40歳代の卒業生は同窓会の出席者が一部の方に固定されています。

数多くの卒業生が集まる光陵会が必ずしも良いとは思われませんが、「同窓会を同期会の一次会」とお考えになって、各期が出席してくれたらいいな、と思っています。

昨年から7期生の村井洋二さんのご尽力で、品川駅前にある品川プリンスホテルで同窓会を開催しています。

交通の便がいいことと、テニス、プール、ボウリング等も利用できるので好評です。

同窓会の開催場所等について、推薦や提案があれば検討いたしますので、こんな場所を使ったらどうか、こんなイベントを取り込んだらどうかなどの情報をスタッフにいただけたら幸いです。

この件に関して、第一の条件は安い利用料金、第二は交通の便が良いことです。

光陵の卒業生が、お互いに高め合うことは、もちろん同窓会活動を通じてやっていきたいと思っていますが、できることなら光陵高等学校のためにも、何かお役に立てるような光陵会でありたいです。

最後に光陵会の皆さまのご健康とご活躍を心から祈っております。

(印刷06) 室 靖 報 上

'98年度 第29回総会・同窓会開催

11月14日

— 同窓会同窓会報 —

光陵会における最大のイベント「総会・同窓会」。昨年度も、平成10年11月14日(土)品川プリンスホテルにおいて、盛大に開催されました。毎年恒例となりましたこの会も29回目を迎え、1期生から30期生まで光陵会会員の方々、長きにわたり光陵高校で教鞭をとられた先生方にご参加頂き、すばらしい集いとなりました。

総会は光陵会における最高機関。そのいわれの通り、会は厳粛に進められました。

太田秀和会長のあいさつに始まり、次いで前校長、田村徳和様のあいさつを頂きました。新旧役員の紹介および承認、予算・決算の報告に続き、寄付金・会員名簿に関する報告がなされました。多くの方々より承認および委任を頂き、今年度も光陵会が活動できますこと、深く感謝しております。

※「予算・決算報告」は同紙4ページ、「寄付金」「会員名簿」に関するお知らせについては8ページをご覧ください。

※遅くなりましたが、'98年度役員の紹介をさせていただきます。

'98年度役員の紹介

- 会 長 太 田 秀 和 (2期生)
 副 会 長 米 原 圭 祐 (29期生)
 大 塚 裕 明 (30期生)
 会 計 武 井 祐 子 (29期生)
 高 木 愛 科 (30期生)
 会 計 監 査 小 林 久 美 子 (26期生)
 杉 崎 麻 里 (27期生)
 書 記 松 浦 圭 介 (29期生)
 岸 和 宏 (30期生)



▲和やかな雰囲気同窓会

総会終了後は、初代校長、原田賢三様の乾杯のご発声より、同窓会が開演しました。総会のときは一転して、和やかな雰囲気での歓談。グラスを片手に思い出話に花を咲かせます。美味しい料理も手伝ってか、皆さんの顔から自然と笑みがこぼれていました。

ここでしばらく余興の時間。9つのグループに分かれて、クイズで競い合いました。第1問の「イントロクイズ」では懐かしい曲に、はやくも歌声が起こります。そのほか、「目隠し〇×クイズ」や「私は今怒っている！クイズ」など、ちょっと変わったものも。また、二人のヒロインの登場で盛り上がりは絶頂に達しました。

いまだ興奮冷めやらぬ中、再び歓談へ。余興により皆さんの親交も深まり、高校時代の先輩と後輩、教師と生徒の関係がよみがえったような、そんな楽しいひとときとなりました。

最後は光陵高校校歌を合唱、名残り惜しまれる中、三本締めで幕を閉じました。



▲新役員紹介、今年度もよろしくお願ひします。



▲二人のヒロイン登場に最高の盛り上がり!



▲親交の深まったグループで記念撮影

第30回総会・同窓会のご案内

本年も会員の皆様の交流となります集い「総会・同窓会」を下記のとおり開催したく存じます。おかげさまで、30回目を迎えます。これもひとえに皆様の温かい御支援のたまものと、深く感謝しております。

御多忙とは存じますが、皆様方をお誘い合わせの上、ご出席下さいますよう御案内申し上げます。

光陵会役員一同、会員皆様にご満足頂けるような会を目指し、努力しております。女性の方、20～30期生の方もお気軽にお越しください。皆様のご参加をお待ちしております。

お手数ではございますが、ご都合のほどを同封葉書にて10月20日(水)までに御一報ください。

尚、欠席なさいます場合は委任状に記名・押印をお願い申し上げます。

'99年度 総会・同窓会のご案内

お手数ではございますが、期・期、御氏名、御連絡先(Tel) および '99年度 総会・同窓会への出席の記入をお願いします。詳しくは同窓会報3ページをご覧ください。

期 別	出席
特別会員	御氏名
御連絡先	Tel ()

'99年度 総会・同窓会に 出席します 欠席します

(必ずどちらかに○をつけてください)

欠席なさいます場合は、委任状に記名、押印をお願いします。

委 任 状

'99年度総会に係る議案の決議に関して、
一任を委任します。

氏名 _____ 席 _____

'99年度以降、出席に変更がございましたら御記入ください。
色西家宛

〒 _____

記

日 時
平成 11 年 11 月 20 (土)
午後 4 ～ 7 時

場 所
品川プリンスホテル
(JR品川駅下車徒歩5分)

会 費

学 生	3,000円
一 般	7,000円 (22期以降)
	10,000円 (21期まで)

また、同葉書の宛名面に、「ご意見・ご感想の欄」をもうけております。会報に対するご感想や総会・同窓会に関するご質問、光陵会でこんな活動をしてほしいというご要望などお聞かせくだされば幸いです。

会 計 報 告

1997年度決算

[収入の部]

入 会 費	1,475,000
終 身 会 費	1,475,000
同 窓 会 会 費	199,000
雑 収 入	79,692
前 年 度 繰 越 金	3,896,500
合 計	7,125,192

[支出の部]

通 信 費	972,740
印 刷 費	297,585
事 務 費	108,496
運 営 費	355,063
交 通 費	65,380
同 窓 会 費	287,926
合 計	2,087,190

収支差引金額 5,038,002円

1998年度予算案

[収入の部]

入 会 金	1,400,000
終 身 会 費	1,400,000
同 窓 会 会 費	200,000
雑 収 入	70,000
前 年 度 繰 越 金	5,038,002
合 計	8,108,002

[支出の部]

通 信 費	1,000,000
印 刷 費	300,000
事 務 費	120,000
運 営 費	400,000
交 通 費	70,000
同 窓 会 費	300,000
合 計	2,190,000

収支差引金額 5,918,002円

進 路 状 況

夢に向かって、大きな一歩!!
今年も受験生は頑張りました。

<国立・公立大学>

学 校 名	総 数		現 役	
	合 格	進 学	合 格	進 学
京 都	1	1	1	1
千 葉	7	5	3	3
電 気 通 信	2	2	1	1
東 京	4	4	1	1
東 京 学 芸	5	5	2	2
東 京 工 業	8	7	5	4
東 北	2	2	2	2
広 島	2	2	2	2
北 海 道	2	2		
横 浜 国 立	13	12	9	8
東 京 都 立	5	3	3	2
横 浜 市 立	10	9	6	6

<短期大学>

学 校 名	総 数		現 役	
	合 格	進 学	合 格	進 学
青 山 学 院 女 子	7	3	5	2

<私立大学>

学 校 名	総 数		現 役	
	合 格	進 学	合 格	進 学
青 山 学 院	32	10	14	6
学 習 院	12	2	3	1
神 奈 川	36	9	17	4
慶 應 義 塾	31	14	17	8
上 智	17	5	6	2
成 城	13	4	9	4
中 央	56	15	21	11
東 海	19	3	10	1
東 京 農 業	11	3	7	2
東 京 理 科	51	21	18	13
日 本	37	10	17	5
日 本 女 子	13	4	7	3
法 政	33	8	13	5
武 蔵 工 業	11	1	3	
明 治	69	21	19	8
明 治 学 院	27	7	16	5
立 教	24	6	5	1
立 命 館	8	2	8	2
早 稲 田	67	27	20	9

紙面の都合上、一部の大学に限らせて頂きました。ご了承下さい。

部 活 実 績

今お人のあ

サッカー	5月 高校総体男子大会 県ベスト16 7月 全国高等学校サッカー選手権大会1次予選会 県ベスト40	水泳	7月 地区大会 男子メドレー大会 5位 大橋 50m自由 5位 大橋 100m背泳 3位 町野 100mバタフライ 8位 岡田 50m平泳 5位
ハンドボール	5月 関東大会男子大会 県ベスト16 高校総体男子大会 4回戦出場	バスケット男子	5月 高校総体予選会 2回戦出場
テニス男子	5月 関東大会予選会 団体 2回戦出場 個人 鈴木 シングル 県ベスト32 市川・徳積 ダブルス 県ベスト64	バスケット女子	4月 関東大会予選会 5位決定戦出場 5月 高校総体予選会 出場
テニス女子	5月 関東大会予選会 個人 川崎・中島 ダブルス出場	剣道男子	4月 関東大会予選会 出場 6月 高校総体予選会 2回戦出場
ソフトテニス男	4月 関東大会予選会 団体 2回戦出場 6月 高校総体予選会 団体 2回戦出場	剣道女子	6月 高校総体予選会 出場
ソフトテニス女	5月 関東大会予選会 個人 山元・吉岡ペア 出場 個人 船水・奥成ペア 出場 4月 団体出場 5月 高校総体予選会 個人 山元・吉岡ペア ベスト64 6月 団体出場	卓球	4月 関東大会予選会 団体 2回戦出場 6月 関東大会予選会 大田 400m 16位 朝日 走高跳 決勝 西川 900m 6位 西川 1500m 8位 4×100mリレー 11位 4×400mリレー 14位
バレーボール男	4月 関東大会予選会 地区予選会 出場	陸上競技男	5月 関東大会予選会 藤川 400m 6位 5月 高校総体予選会 大川 900m 19位
バレーボール女	4月 関東大会予選会 地区予選会 2回戦出場 5月 高校総体予選会 3回戦出場	野球	9月 秋季大会県大会 出場 7月 竜王戦 個人ベスト16 久野
バドミントン男	4月 関東大会予選会 出場 5月 高校総体予選会 地区予選会 個人 末住野 シングル 2回戦出場 小高・末住野 ダブルス 森田・松田 ダブルス 2回戦出場 5月 高校総体予選会 2回戦出場 関東大会予選会 地区予選会出場	囲碁	7月 第22回全国高校選手権 2回戦 4月 第23回全国高校選手権 県予選準優勝 8月 高校総体文化祭全国大会 19位 7月 全日本棋院青少年コンクール県大会 金賞 11月 全日本アンサンブルコンテスト地区大会 銀賞
バドミントン女	5月 高校総体予選会 シングル 藤田出場 シングル 鈴木出場 ダブルス 鈴木・東出場 ダブルス 中村・石橋出場 5月 団体 2回戦出場		

平成11年度異動

【転出】

教 頭	河 原 み ゆ き	岩戸高校校長へ
国 語	佐 藤 雅 一	保土ヶ谷高校へ
数 学	笠 松 由 彦	中沢高校へ
	佐 藤 圭 司	緑蔭中学校へ
	関 根 弘 一	藤沢工業高校へ
理 科	西 村 宗 一 郎	厚木南高校教頭へ
	相 原 延 光	城内高校へ
体 育	高 原 正 人	衛生短大二俣川高校へ
英 語	藤 原 秀 樹	上矢部高校へ
	松 崎 信 也	野庭高校へ
	川 上 蒼 子	高浜高校へ
技術技師	佐 藤 隆	七里ヶ浜高校へ

【退職】

地 歴 小 林 一 男

【転入】

教 頭	最 首 義 雄
地 歴	戸 田 崇 行
数 学	高 橋 伸 行
	佐 藤 危 太
	藤 我 和 成
理 科	河 邊 篤 篤
体 育	松 本 哲 吾
英 語	玉 塚 恵 子
	久 永 靖 子
	島 武 彦
技能技師	松 本 英 男

あの人は今……………。

光陵高校を卒業された皆様は、現在各方面で活躍されています。その活躍ぶりを知ることは、大変喜ばしいことと思います。今回は、女優の林あずささん(旧姓 真野あずさ)と、画家の黒木雅彦さんに御寄稿頂きました。お忙しい中にもかかわらず、突然の寄稿依頼を快く引き受けて下さり、どうもありがとうございました。

「ごんた坂」に寄せる気儘なエッセイ

林 あずさ(8期)

光陵会幹事のMさんから突然の執筆依頼の封書が届いた。「同窓生のご活躍を紹介する記事として連絡させて頂いた」とあったのだが、二時間ドラマの撮影も控えていたし、他にも締切日の近いエッセイを頼まれていたのでお断りしようかと思っていた。

私は活躍などしていない。露出の多い仕事をしている為に目立っているだけである。十年以上続いているレギュラー番組を二つ、「はぐれ刑事純情派」(ワンシーンかツーシーン、お酌をしながら他愛無い会話をさせて頂く)と年に二本の火曜サスペンス女弁護士シリーズ、その他CM、取材。やらせて頂いている仕事はこれぐらいで、活躍などとはおこがましい。同窓生の中で私よりも地道に真摯に仕事に取り組んで活躍していらっしゃる大勢の方に申し訳ない話である。

Mさんは現役の大学生でいらっしゃる様で、聞き知らぬ林という中年女性からの電話に訝しげに対応なさったお母様の心境を「さもあらなん」と微笑しながら携帯電話の番号を伺って何度目かにご本人と接触。聞けば寄稿してくれる方が稀であるようで、締切日をぎりぎりまで延ばすから是非にとの事。本当にご活躍の方は執筆する暇など無いのであろう。そこで、怠け者で比較的暇な私の出番となったのである。

前置きが長くなったが、そう、私は勿論高校時代も怠惰だった。「三つ子の魂」とは良く言ったものだ。謙遜でもなく私は劣等生だったのである。父の教育方針は「女は短大を卒業して早く嫁に行け。」だった。消灯は十時。暇があれば家事の手伝い。高三の冬休みには「勉強をするな。」と一週間、ニューヨークに遊びに行かされた。受験勉強の自習の時間に早退してパスポートを取りに行かされたのを覚えている。怠惰の素地のできていた私は大義名分ができ、堂々と勉学を怠っていた。

高校生活の思い出は沢山ある。朝、保土ヶ谷駅でバスが来ず、停留所は光陵生で溢れかえる。最初は遅刻が嫌で船詰めバスに校友を押し退け乗ったが、高三になると、勾配のきつい権太坂を駆け上がるのも億劫で遅刻を繰り返していた事。光陵祭で田植えを出し物にし、校舎の前に田圃と釜山子を作り、種の苗を両手に田植え音頭を唄いながら麓下を回り回った事。その稲は秋に黄金

色に実り、刈って精米して貰い、クラスの皆で御握りにして食べた。後夜祭での恒例儀式、デカンショ節は汗臭く、野蛮で神聖だった。

一度だけ、授業をサボった事がある。それは厳しい暑さか寒さの過ぎ去った、穏やかな日だった。学校の下横須賀線の線路よりの丘の中腹が毛足の長い緑の絨毯の様な草原になっていて、食後の昼休みに三・四人で遶んだ空を見上げ、草の香りに包まれながら寝そべっていた。満腹感も手伝っての心地良いまどろみを破ったのが五時間目の開始チャイム。

誰かが「五時間目は家庭科だからサボっちゃおうか?」「うん、そうしよう。」暫くして罪悪感が頭を掻き、目が冴えてきたその時、草を踏み分ける音が遠くでした。生活指導の先生だった。喧嘩に寝入りを決め込んだが、寝息も立てられず息を詰めていた私たちの耳に足音は次第に近付き、そして止まった。だが、明らかに私たちの姿を認識した筈の先生の足音は、また静かに遠のいていった。六時間目が始まる前に戻った私たちは家庭科の先生に呼び出された。「どうして授業に出なかったの?」「外で昼寝をしていたら寝過ごしてしまいました。すみません。」「家庭科じゃなかったら寝過ごさなかったでしょ?」先生は怒りもしなかったし、それ以上何もおっしゃらなかった。その期の家庭科の成績は、普段母の料理の手伝いをしているせいもあって、変わらず良かった。私たちはその後、決して授業をサボる事は無かった。光陵には、好きな先生が多かった。

同意会で久しぶりに光陵の同級生と会うと、その人間性の高さに驚かされる。先日、ドラマの横浜ロケでお世話になったお医者様が偶然にも光陵の先輩だったが、やはりそうだった。穏やかで、思いやりがあり、ちゃんと人の話を的確に受けて返してくれる。決してお世辞では無く、人間としてのプライドと器の大きさを感じた。そういう同窓生を私は誇りに思い、自分も肖りたいと反省しきりになる。

そして、おっとりとした、自由な校風の中で良き師と友に囲まれ、恵まれた楽しい高校生活を送れた自分を改めて幸せだったと感じ入るのである。

『生画家の生活とは』

黒木雅彦 (10期)

82年 ミニチュア大賞展 優秀賞受賞

85年 東京セントラル油絵大賞展 入選

83年 ミニチュア大賞展 佳作賞受賞

91年 以降 個展開催

「生きて動く画家って初めて見たよ。」

以前、友人宅で紹介された人にそう言われたことがあります。

そりゃそうだ。大抵の人にとって「画家」って、美術の教科書に載っている存在でしかないものね。ゴッホとかセザンヌとか。

きっと皆さんも「生画家」の実体なんてご存じないでしょう。画家の生活というと、自由でパッションに溢れていて、芸術衝動が湧き起こると寝食も忘れて絵筆を握りしめて、なんて思っているのではないのでしょうか。

画家の生活って皆さんが想像しているほど自由ではありません。そもそも「何を描くか」という点からして拘束が多いのです。

例えば私の場合、画家としてデビューしたとき、一番売りやすい花とか果物の絵を描いては画商に預かってもらい、売れるのを待つ、ということから始めました。

花や果物だっておもしろいモチーフではありますが、私には花の他にも描きたいモチーフがありました。

やがて、絵が売れるようになると、描きたい絵を少しずつ混ぜて渡すようにしました。当然画商からはいやな顔をされますが、そういうときは笑顔で勝負。

絵を売るといのは経済活動です。最初は嫌がっていた画商も売れる分には文句を言わなくなります。力関係の逆転ですね。

やがて、花や果物などのモチーフはすっかり姿を消し、今描いているような動物を擬人化したシリーズが定着しました。

では今は自由に好きなものを描いているか、というと、決してそんなことはありません。なぜなら、これは「仕事」だからです。どんな芸術的な作品でも、お客さんが買って欲しくなくては意味がありません。描きたい絵と売れる絵の接点はどこなのか。常にそれを考えざるを得ません。

また、こうも言えます。

世の中の大多数の人々は、経済活動や奉仕活動によって社会に貢献しています。なのに独り芸術家だけが己の欲望や衝動だけで絵を描いていていいものか、と。

ですから、私は、私の絵を見たり買ったりしてくれる人が幸せになるような、そんな絵を描きたいといつも思っています。

日々の生活も皆さんが想像している以上にストイックなんですよ。

プロの画家はみんなそうなのですが、2年先3年先まで展示会の予定が入っていて、それから逆算していつまでに何枚作品を仕上げなくてはいけないかが決まってしまうのです。ひと月に描ける枚数というのは決まっていま

すから、毎日何時間仕事をしなくては行けない、というのも経験からわかります。自ずと規則的な生活にならざるを得ません。例えば私は、朝は6時に起きて新聞とEメールに目を通し、食事や掃除洗濯を済

ませて、9時半頃から仕事にかかります。昼食のあとコーヒーを入れ、またEメールや掲示板のチェック(一日で一番幸せな時間です)。ちょっと昼寝をして、5時過ぎまで仕事。夕食のあとはスポーツクラブに行ったり、テレビを見たり。寝る前に1時間くらい仕事をして、12時には床につきます。

こんな生活の繰り返しです。土、日も一緒。どうです、地味な生活でしょう。

個展の打ち合わせ以外では仕事上の付き合いもないため、誰とも会話しなかったり、家から一歩も外に出ない日もあります。孤独に耐えられない人には向かない仕事です。幸い2年前にパソコンを購入し光陵OBのメーリングリストに参加したりして、毎日たくさんの人とメールで会話するようになりました。家で仕事している人にとって、パソコンは外界に開かれた大きな窓ですね。

画家になってよかったと思ったのは、通勤がないこと、昼寝ができること、そして平日に旅行に行けることでしょうか。ただし、サボった分はあとでばん回しなくては行けませんから、そうそう遊んではいられません。

これが「生画家」の実体です。

光陵のOBのみなさんが日本中に、そして世界中に活躍の場を広げているのを知ると、「すごいなあ。偉いなあ。」と誇りに思います。

同時に、「オレは一生の大半をアトリエで過ごすんだな。」と、しょんぼりしてみたり。自由な芸術家もいろいろ複雑ですね。(笑)

よく「好きなことをして食べていかれて幸せだね。」と言われますが、私の愚文で認識をあらたにいただければ幸いです。

え、やっぱり幸せそうじゃないか、って?

ちっ、ばれたか。

(11月中旬、池袋・東武百貨店・アートサロンにて個展があります。よろしくお願いたします。)



賛助金にご協力下さい

光陵会の運営資金は卒業時に皆様から頂く会費で賄っておりますが、会費収入は減少の一途をたどっております。光陵会といたしましても運営経費の節減に努めているところですが、会員数の増加により必要経費も増加し、運営資金の逼迫は避けられない状況となっております。そこで光陵会といたしましては、今回次のような内容で賛助金として会員の皆様から募ることにいたしました。つきましては何卒事情をご心配頂き、本趣旨にご賛同頂きますようお願い申し上げます。

1. 金額 1口 1,000円 何口でもかまいません。

2. お支払い方法 郵便振込：同封の振込用紙をご利用下さい。
銀行振込：次の口座にお振込み下さい。

横浜銀行緑園都市支店

口座番号 367-1187951

光陵会

光陵会名簿について

このたび98年度光陵会名簿が発刊になりました。ご購入下さった会員の皆様、どうもありがとうございました。ここで、会員名簿についてのご注意を申し上げます。昨今、名簿を利用した勧誘などの業者が多く存在し、問題になることがあります。ですから、名簿の使用は個人の範囲に限り、他人に譲渡、売買することのないようにしてください。なお、これから名簿をご購入されたい、という方は多少在庫がございますので封書にてお知らせ下さい。(住所は右下の「光陵会」宛でお願いします)

寄稿のお願いについて

現在、光陵会は26期から31期の大学生を中心に活動しています。今年で30年を過ぎた光陵会、これからも、より幅広い活動を目指していきたいと思っています。そこで、年に一度の総会の他にどなたでも気軽に参加できる新企画として寄稿の募集をお願いしたいと思います。テーマは“私の仕事自慢”。こんなに楽しい、こんなに珍しい、こんなに大変など、何でもけっこうです。

“私の仕事自慢”

字数：400字前後

締め切り：3月末まで

宛て先：〒240-0026 保土ヶ谷区榎太坂1-7-1

神奈川県立光陵高校内「光陵会」行

なお、今回募集する寄稿は来年度の会報に掲載します。

スポンサーの募集

同窓会会報“ごんたざが”も発行部数1万部を越え、多くの方々に親しまれる情報誌となりました。そこで光陵会では今年度よりスポンサーの募集をします。

会報に広告を載せたいという方は下記の住所「光陵会」までご一報下さい。

尚、料金につきましてはB5用紙1/8当たり1万円となります。

あ と が き

二十歳前後のスタッフが若さを生かして制作した第四号の『ごんた坂』。今回は文章の構成を変えて横書きにしてみましたがいかがでしたでしょうか。

会報や光陵会の活動等に関するご意見、ご感想等ございましたら、下記の連絡先までよろしくお願い申し上げます。

この会報の発行にあたり多くの方々のご協力を頂きました。心より感謝申し上げます。会員皆様の御多幸をお祈りしつつ、あとがきに代えさせていただきます。

発行者 〒240-0026 横浜市保土ヶ谷区榎太坂1-7-1
神奈川県立光陵高等学校内 光陵会
印刷所 〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-8-14 CSIビル
中央出版印刷所

編集スタッフ

28期	武藤 仕輝		
29期	米原 圭祐	神谷 和彦	
	松浦 圭介	村田 亜沙子	
30期	大塚 裕明	岸 和宏	
	竹生田 悠介	小俣 千恵	